

令和5(2023)年度

大阪府高視研と放送コンテスト委員会の歩み

大阪府高等学校視聴覚教育研究会

目 次

大阪府高等学校視聴覚教育研究会事業報告	1
大阪府高等学校視聴覚教育研究会役員、異動ならびに会員消息	2
<研修会・講座・講習会>	3
高校生のための放送技術講座	
第1回 付：アンケート結果	3
第2回 付：アンケート結果	7
第3回（芸文祭と併催）付：アンケート結果	10
第4回 付：アンケート結果	13
<放送コンテスト関係>	
大阪府高校放送コンテスト大阪大会	
実施報告（課題原稿・審査員一覧含む）	16
参加状況一覧	18
決勝結果一覧	20
全国大会結果	21
<芸術文化祭関係>	
第44回大阪府高等学校芸術文化祭 放送文化部門	22
第43回近畿高等学校総合文化祭(三重大会)放送部門	23
第47回全国高等学校総合文化祭(鹿児島大会)放送部門	23
<大会および研修会>	
第72回近畿放送教育研究大会・第73回近畿学校視聴覚教育研究大会	24
京都大会（二次案内より抜粋）	
公式サイト等のご紹介	29

令和5年度 事業報告

令和6年5月22日

大阪府高等学校視聴覚教育研究会

(1) 総会および研修会

①総会

令和5年 5月31日(水) ※Zoom 開催

(2) 講座および講習会

①高校生のための放送技術講座

第1回 令和5年 4月23日(日) 大阪府立今宮工科高等学校

第2回 令和5年 8月19日(土) 四天王寺東高等学校

第3回 令和5年11月 5日(日) 大阪私学会館

第4回 令和6年 1月28日(日) 相愛高等学校

②放送クラブ指導者講習会(顧問説明会)

令和5年 4月23日(日) 放送コンテストについて 大阪府立今宮工科高等学校

(3) 放送コンテスト関係

第70回 NHK杯高校放送コンテスト大阪大会

令和5年 6月 3日(土) 番組部門予選 府立今宮工科高校 ※データ審査

4日(日) アナウンス・朗読部門予選 相愛高校 ※データ審査

令和5年 6月11日(日) 全部門決勝 相愛高校

関 連 行 事

(1) 大会および研修会

①近畿放送教育研究協議会夏期特別研修会 ※今年度は実施せず

②第72回近畿放送教育研究大会/第27回近畿学校視聴覚教育研究大会 京都大会

令和5年11月17日(金) 京都アスニー、京都市立安祥寺中学校(中学・高校共同)

③第27回視聴覚教育総合全国大会/第74回放送教育研究会全国大会

令和5年11月11日(土) ※WEB方式で実施

(2) 第70回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会

準々決勝 令和5年7月25日(火) 代々木オリンピックセンター ※番組はデータ審査

準決勝 7月26日(水) 代々木オリンピックセンター

決勝 7月27日(木) NHKホール

(3) 芸術文化連盟関係

①第47回全国高等学校総合文化祭放送部門

令和5年 8月 3日(木)～ 4日(金) 鹿児島市 かごしま県民交流センター

②第43回近畿高等学校総合文化祭放送部門

令和5年11月19日(日) 三重県津市 三重県総合文化センター 三重県文化会館

③第44回大阪府高等学校総合文化祭放送文化部門

令和5年11月 5日(日) 大阪私学会館

会長	小畑 敦彦	大阪府立貝塚高等学校校長
副会長	浜田 佳樹	大阪府立東百舌鳥高等学校校長
	岸本 尚子	阪南大学高等学校長
会計監査	秋本 みゆき	大阪府立いちりつ高等学校教諭
	大西 篤史	相愛高等学校教諭
書記	久下 哲也	大阪府立池田高等学校教諭
	伊藤 元也	四天王寺東高等学校教諭
会計	酒井 学	大阪府立堺西高等学校教諭
	藤田 大輔	阪南大学高等学校教諭
顧問	西田 恵二	大阪府立天王寺高等学校校長
	伊藤 範子	大阪府立桃谷高等学校校長

役員異動ならびに会員消息（令和5年4月1日現在）

伊藤 範子	大阪府立桃谷高校校長……………（再任用）同校校長
西谷 公成	阪南大高校校長……………（再雇用）同校教諭
戸野 佑亮	大阪府立槻の木高等学校教諭……大阪府教育センター指導主事へ
姫路 裕敏	大阪府立西成高等学校教諭……………福井高校へ

高校生のための放送技術講座（１）実施報告

〔１〕会場・日程

４月２３日（日） 今宮工科高等学校

９：００～ ９：３０ 午前の部受付

９：３０～１２：３０ 技術講座（アナウンス・番組α・顧問説明①）

１３：００～１３：３０ 午後の部受付

１３：３０～１６：３０ 技術講座（朗読・番組β・顧問説明②）

〔２〕講座内容

・アナウンス講座（公開指導を含めた個別指導）

講師 安田知博先生（放送部インストラクター）

公開指導を含めた個別指導を行いました。自作原稿の書き方・読み方の指導、話題探しや取材など、アナウンスに必要な要素をすべて網羅した講習でした。

・朗読講座

講師 仲山豊秋先生（元NHKアナウンサー）

公開実技（個別）指導を行いました。希望多数のため各校約１人の実施でした（各校２名以内で朗読原稿を事前に送信）。

・番組α講座…ドラマ個別相談

コンテスト委員がドラマ制作について個別に相談を受け付けました。

・番組β講座…ドキュメント個別相談

講師 井村慎介先生（関西テレビ放送）

ドキュメント番組の制作について個別指導を行いました（事前に番組の構成表を事前に送信）

〔３〕顧問説明会

第70回NHK杯全国高校放送コンテスト参加に向けての諸注意を行いました。２回に分けて実施し、すべての学校の顧問の先生方にご参加いただきました。

〔４〕参加数

参加総数 生徒 ４１校生徒１７１人顧問４６人

アナウンス４４人 朗読４０人 ドキュメント７校３３人 ドラマ９校２６人

〔５〕アンケート結果（抜粋）

＜生徒アナウンス講座＞

- 一文は一息で読んだ方が自然に聞こえるということを初めて知りました。音域を広く使うことが抑揚の付け方など、大変勉強になりました。音域を広く使うことが抑揚の付け方など、大変勉強になりました。
- 読む前までは何も分らなかったのが、たくさんの人の前で読むと、自分が気づいていなかった点を指摘してくれました。１回目に読んだ人と１０回目に再び読み合うと、「上達してるね」と言われ、嬉しかったです。
- 抑揚をつけて話す、調べる力、まとめる力、伝える力、動かす力のこの４つが大切だと気づいた。
- アナウンスは１：１０～１：２０の時間を守る。「～そうです」を使わずに断定をして話すなど、いろいろ勉強になった。
- アナウンス部門は日頃の校内放送の成果であるということを知れました。
- 文を読む時は、流れや音の高さ、まとまりを意識してハキハキと読むことが基本ということも知れました。初心者で分からないことだらけでしたが、母音で文を読むなどの練習法を知れてよかったです。
- 普段の自分の声で話すということが重要なことだと思いました。

- 文章の中にある1つ1つの言葉の切り取り方を変えるだけで内容の伝わり方がこんなにもちがうのか、ということを感じた。その切り方にしても、二つの言葉どうしのつながりや文として重要な部分を強調したりと、切り方が明確なメッセージを持って動作していた。
- 他校の皆さんとの交流の中で、他の人の原稿を通じて文章の改善を考えられたので、これから自分で原稿を書く際には、他の人に見てもらって多様な意見を取り入れようと思いました。
- なかなか普段の練習では気付けないことも、周りの先生方や生徒のみなさんに聞いてもらって、改善点が多々見つけられたので、改善していこうと思いました。
- 公開指導も他の人の指導を見ているだけでも自分に当てはまるものもあって良かったです。次は自分も手を挙げられるようにしようと思いました。
- 原稿の内容を客観的に見直すことができて良かった。
- 原稿を書くことがここまでむずかしいと思いませんでした。また声が最初に上がり、最後に下がるといったこと、基本的に、一息で1文よむのが理想であるといったことなども今後練習に活かしていきたいと思います。
- 自分が納得していなかったところのアドバイスをもらえたことで、もう一度取材したいと思った。自分の音域をもっとひろくつかいたいと思った。
- 人への伝え方、発言の仕方がわかりやすかったです。他人に自分の声を聞いてもらい、厳しい点やアドバイスを言ってくれました。これを放送の活動やコンテストにも活用していけるように頑張っていこうとおもいます。
- 2つのことを1つの文章にするのではなく、1つのことを1つの文章にわかりやすく書く。最初は上がり最後は下がることを意識する。
- 取材したことそのままではニュースにならないということが教えてもらえてよかった。ニュースとして伝えるときは丁寧語でいいということは知らなかった。
- 一息で読むこと、一息で読める文を書くことを意識していきたい。
- 誰に伝える文なのか、最初に何をいうべきなのかなど、様々な事を学ぶことができた。
- 特に、自分の喋り方の特徴に気づくことができてとても有意義な講座でした。同世代の放送部員から、ふだんは聞けないフィードバックがもらえて、新たな学び・気づきが生まれた。
- 実際にアナウンサーとして活動している方に直接自分の話し方の欠点を知ることが出来ました。今回学んだことを他のメンバーにも教えようと思います。

<生徒朗読講座>

- 声を文末で落とすということはあまりできていなかったので参考になった。古典の朗読の仕方は知らなかったの今回学べてよかった。「自然なしゃべり方を意識して」と何回も言われていましたが、自分自身でそれを自覚するのは難しいので、だれかに聞いてもらうのが大切なんだとわかりました。
- 自分自身の声が物語に入り込めていないことを自覚することができて良かったです。息遣いや間に気をつかうことにもっと力を入れたいと思います。大河ドラマなどナレーションの声を聴いてみて、参考にしようと思いました。一息しゃべりというテクニックを習得していきたいと思いました。
- 断定系ははっきり、断定できないところは、ゆっくりふわふわする声で。文末が伸びるのは減点対象。腹から声を出す。山場の設定と物語の把握が大切。
- 作者が「こう読んでほしい」と思うような朗読。100%鏡でうつすような形で朗読。第一印象が大事。高低差・速さ・言葉をそのまま大切に。声の太さで印象がかわる。リズム。絵になって頭に出るように。長い文はだんだん早くなっていく。声出しは最低限。情景や時代背景によってトーンを変える。セリフが舞台口調にならないように自然なしゃべり。まっすぐ読む。読点を100%で読まない。安定感を意識＝語尾を落とす。同じような表現の場合は音を変える。読み急ぎしないように情景を想い浮かべるように。
- 話を聞いていて一番学びになったのは、自然さを大切にすることや、ほんの少しの「間」で変わる読み方の面白さでした。限られた時間でもはっきりと上達しているのがわかって、ポイントを知るだけでグレードアップする朗読の楽しさ、自分自身教えていただいて読みが変わっているという感覚を味わえて本当にいい経験になりました。
- 講座に参加して、朗読の難しさをあらためて感じた。また、他校の方の朗読を聞いて自分の至らなさを痛感した。コンテストまでに自分の腕をあげて、他校の方とはりあえるようになりたい。
- 公開指導を聞いて、自分にもいかせることが数多くあった。

- 朗読する意識が変わった。ただ読むだけでなく、細かいアクセント・音の高低・速度を使い分け、聞き手にいかに熱意を伝えるかが重要だとわかった。
- 他校の方の十人十色といえるような朗読をきけたこと、それを通して「物語を読むこと」とした意識していなかった朗読についてたくさんのことを学べたことは貴重な経験でした。
- 自分にとって今から練習すべきことが明確に理解できた。棒読み調になってしまうときの改善方法がわからず悩んでいたが、今回の講座で学ぶことができた。
- みなさんはじめから上手なのに、アドバイスをもらってからもっと上手になっていたの、アドバイスが適格だなと感じた。
- 小説の世界観に入り込むことが大事なんだとわかった。思った以上に感情を出していいんだとわかった。自然な口調で読むことを意識すると棒読みにならないとわかった。的確に細かく指摘していただいたので、とてもわかりやすかった。
- コンテスト前にみなさんの読みを聞けてよかった。どんな場面を抽出したのか気になっていたの、知れて良かった。文章を雰囲気を読んでしまうことが多いので、しっかりと理解することが大切だとわかった。
- 少し意識するだけで劇的に変化することがわかった。
- 自分で「これがよいな」と思っていた読みが実は違っていたり、様々なアドバイスを聞いて気をつけようと思えることがたくさんあった。
- 発表して自信がついた。メンタルが強くなった。ほとんど図星だったので自分の弱みに向き合うことができた。
- 自分の朗読は聞き手を置き去りにしていることが分かった。
- 肺活量が少ないので、走り込みをしようと思った。
- 全員に共通する「意識すべきところ」が分かりやすかった。完全に話しきるのでなく、私たちに考えさせてくれるところがよかった。良いところもほめていただき、自信がついた。
- 他の人の良いところ、改善点を知ることができ、詳しい解説があって自分の改善点も知ることができた。
- 公開指導は受けなかったが、勉強になった。自分の課題もみつけることができた。
- 初めてしっこところがたくさんあり、すごく勉強になった。ここまできちんと本の中身を読んだことがなかったの、これからはたくさん読み込もうと思った。

<生徒ドラマ講座>

- 何かに全力で取り組んだりしたことはなかったのですが、このドラマ作成は頑張ってみようと思いました。
- 説明が長くなりすぎないように背景設定を簡単なものにする、やりたいテーマを重視してそこに注力する、最後まででは語らないけどモヤモヤするようなバッドエンド、中途半端だと現実に近づくので思い切ってSFっぽくするなどを学んだ。
- まだドラマを作ったことがないので、今回いただいたアドバイスをもとにドラマをつくりたいと思います。ナレーションはできる限り少なくし、より分かりやすい物語を作れるようにしたいです。
- 今まで部員や顧問の先生方に見てもらったりしていたので、具体的なシーンの改善点やアドバイスをしていただき、すごく参考になりました。
- 初めて参加したが、撮影などのアドバイスを聞いて勉強になった。
- 急ごしらえの台本になったが、たくさんのご指摘をいただき、迷っていたものにも決心をつけることができた。
- 台本と一緒に考えてみて、「ここどうすればいいだろう」と悩んでいたところを教えていただけて安心した。主観だけでは気づけないところや言語化できなかったところまでアドバイスしていただけてもっと良い作品ができると思った。
- 書いているときは気づけなかったところを教えていただき、参考になった。初めて読む人、身内ではない人からの意見はすごく大切だと思った。「声だけ」ということを意識して脚本を書きたい。

<生徒ドキュメント講座>

- 私たちが想像してた構成と正反対だったが、良いところ・悪いところとでしっかり聞けてよかったと気づいた。
- 私たちが考えたことがやっぱりちょっと違うのがわかりました。先生方が的確に指導していただけて、どうすればいいのかもわかりました。

- ドキュメントの流れとかで悩んでいたけど、切り口を見つけられた。流れとかは素人だから、そこまでの流れを教えてくださいのがうれしかった。時間が少ないけど、そこから見える世界の見つけ方がわかった。事前にすべてを考えておくのは苦手だけど、ドキュメントはそれが必要。

<その他>

- 低い声が良いと言われたのは初めてでした。とても嬉しかったです。ありがとうございました。この声も生かして放送がんばります。
- こういった練習を誰かに聞いてもらう場を初めて体験したので、色々な先生や生徒から話を聞くことが出来て、自分の活動にさんこうになりました。

<顧問説明>

- ミスのないよう、気をつけたいとあらためて実感した
- 提出方法が少しずつ変わっているので注意したいと思います。
- 具体的に詳しく説明していただき、よくわかりました。大阪大会の要項用紙が、とても見やすくなったなど思っていたのですが、そういう理由があったんですね。
- わかりやすかったです。間違いやすいところを丁寧に説明していただけて有り難かったです。特に今回は「初めての顧問が戸惑うだろう」「機械操作が苦手な顧問が困るだろう」ということが想定されていて、不明点に気づきやすかったように思いました。作品等提出時の規定違反、去年より減ると思います。
- 今年度の変更点や注意点を丁寧に説明いただき、有難うございました。
- 非常にわかりやすくご説明いただき有難うございました。たくさんの失敗例をうかがいしたので、今後はご迷惑をおかけしないように重々チェックしたいと思います。
- 不備のないようにファイル提出等努めたいと思います。
- 細部までご説明いただき有難うございました。昨年のご苦労がしのべれます。

<顧問アナウンス講座>

- 大変わかりやすい説明でした。
- 基本的な事項（アナウンス原稿の作成、発声）について大変参考になりました。

<顧問朗読講座>

- 古典作品についての公開指導を初めてみさせていただき、とても参考になりました。
- 各校代表生徒の朗読を一人一人色々な方向からの視点による的確な仲山先生のご指導とアドバイス。聴いている生徒にも大きな影響を与えたと思います。特に、仲山先生の「より一歩感情を入れた朗読を」という方針は現在の全国大会の審査基準に合っていると思います。その点は、少し昔の「感情をあまり強く入れない」という大阪の教えを改めねばと思いました。

<顧問ドラマ講座>

- Nコン直前のこの時期に個別相談会方式の講座をされたところは非常に良かったと思いますし、ニーズにもあっていると思います。
- 間に合わせの原稿であったにもかかわらず親身になって話をしていただき、有難かったです。

<顧問その他>

- 新年度が始まって早々の忙しい時期に色々な準備をしていただき、有難うございます。
- 白本が分かりやすくなっていました。有難うございます。

高校生のための放送技術講座（２）実施報告

〔１〕会場・日程

８月１９日（土） 四天王寺東高等学校

９：３０～１０：００ 受付

１０：００～１２：３０ アナウンス・朗読講座① NHK杯第７０回大会のふりかえり

１０：００～１２：３０ 番組講座① NHK杯第７０回大会のふりかえり

１２：３０～１３：１５ 昼休み

１３：１５～１４：００ 全体講座「放送部の活動 超入門編」

１４：００～１６：３０ アナウンス・朗読講座② 公開指導・交流会

１４：００～１６：３０ 番組講座② 番組相談会・交流会

〔２〕講座内容

・アナウンス・朗読講座① 講師 安田知博先生（放送部インストラクター）

・番組講座① 講師 井村慎介先生（関西テレビ放送）

ともに第７０回大会のふりかえりと、第７１回大会のスタートアップにつながる講座を行いました。

・全体講座 講師 井村慎介先生（関西テレビ放送）

先生のご経験を通して、「放送部の活動とは何か」について改めて考える講座でした。

・アナウンス・朗読講座② 講師 仲山豊秋先生（元NHKアナウンサー）

公開指導を実施しました

・番組講座② 講師 井村慎介先生（関西テレビ放送）・高視研役員

番組づくりについて、相談会・交流会を行いました。

〔３〕参加数

参考総数 ４１校 生徒１７１人 顧問４６人

午前：アナウンス ３８人 番組 １６人

午後：アナウンス １５人 朗読 １５人 ドキュメント １４人 ドラマ 生徒５人

〔４〕アンケート結果（抜粋）

<午前 アナウンス・朗読講座>

- 他の人と意見交換をして原稿をつくる作業が新鮮だった。
- 日頃、このような練習ができていない弱点が浮き彫りになった。次の大会にむけてとても参考になった
- 何をインタビューしたらよいのか考えるのが難しかったが、得られるものが多かった。取材することで、朗読者としても得られることが多かった。
- コミュカとアドリブ力が重要。
- 「人につたえたいこと」をしっかりと見極められるようになりたい。
- 普段経験しない「会見→取材→放送」の一連の流れを体験したことで、何を伝えたいのかを意識することの大切さを知ることができた。
- 即興でアナウンスを考えることが難しかった。
- 初対面の人と話すという貴重な経験ができた
- 普段から自分の気持ちを簡潔にまとめる練習をしようと思った。
- どんな状況でも相手に伝えられるようになりたい。とても有意義だった。実力不足を実感した。
- はじめての経験だったが、協力することが楽しかった。
- 伝えたいことをズバッと書くことが大切。
- 急に短い時間で原稿をまとめるのがとても難しかったが、普段からやっておくと大会にもつながると感じた。

- 情報を伝える方法が学べてよかった。コミュ力がついた。
- 原稿の作り方を一から学べてよかった。
- 放送というものは、かなりシビアな世界だと思い知らされた。
- 取材した内容をすぐに原稿に起こすことが難しかった。
- フリートークの練習が大切。

<午前 番組講座>

- スケジュールの重要性がよくわかった。みんなで視聴すると、細かいところまで気づくことが増えた
- 作品を作る難しさ、メッセージを込める難しさがよくわかった。
- インタビューとナレーションだけではドキュメントにならないということがわかった。
- 客観的に自分たちの番組を視聴して気づきが多かった。
- まずは、手振れや雑音をなくしていきたい。スケジュール大切。
- もっと少人数で相談できるような講座だったらもっと面白くなる。
- みんなで話合うことがとても勉強になった。

<全体講座について>

- 井村先生の学生時代のエピソードがとても面白かった。
- 朗読と番組づくりがつながることがよくわかった。
- 放送部でやりたいことが増えた。
- 「楽（たの） 苦しい」という言葉が的を射ていたと感じた。
- 番組制作の基本についてあらためて考えられた。
- 放送部の目指す方向性がよくわかった。
- 早くから取り組むべきことがよくわかった。
- 放送部員として後悔しないような活動をしたと思った。
- 取材対象者とのコミュニケーションが大切だとよくわかった。
- 本質を知ることの重要性がわかった。
- 番組制作の楽しさが伝わってきた。
- 「伝えること」が大切で難しいとわかった。一問一答形式の取材は面白くない。日常会話からはじめることが大切。「放送部なんですけど」を使いながら、色々な人とコミュニケーションをとりたいと思った。
- 取材する力・言語化する力をもっと高めたいと思った。
- グループワークで交流が深まった。このような機会がまたほしい。
- 動画と番組の違いがよくわかった。
- ドキュメントを作ってみたいと思った。
- 普段はアナ朗だが、番組を作りたいと思った。
- 放送部の活動が何をするのかよくわかった。

【午後・アナウンス講座】

- 音の強弱やスピードが大切。自然に読む方法が分かりやすかった。交流会がよかった。
- 「話す」が中心で楽しかった。
- 短い文章を読むだけで、自分の苦手やクセがでるのだと思った。

【午後・朗読講座】

- 自分が全然読めていなかったことに気づいた。
- 交流の雰囲気がよかった。
- 短文にも意識すべきポイントがつかまっていることがよくわかった。

- 演出を心がけようと思った。心情にのせてそのまま表現する朗読を意識したい。聞き手にどう伝わるのかを意識することが大切。どこかから引用された文章はあえて棒読みで読む。
- これまで自分が意識していなかったことをアドバイスしてもらえた。
- みんなで考えを共有できてよかった。仲山先生の熱い指導に感動した。
- 交流が楽しかった。指導を受けた生徒の上達ぶりに驚いた。一人一人の指導の時間を決めてほしかった。
- 「全てを鏡に映すような読み方」がその通りだと思った。

【午後・ドキュメント講座】

- 色々な番組が視聴できてよかった。
- 兵庫県の番組をみることでよかった。
- はじめのインパクトは大切。番組づくりのコツを知れてよかった。
- 視聴のポイントがよくわかった。
- 取材するときの声のかけ方が大切。スケジュール管理が大切。
- 大阪も負けてられん！と思った。
- 一つの番組について深く考えることができた。
- 自分の番組にも生かせそうな内容がいっぱいだった。

【午後・ドラマ講座】

- いつも結末に困って途中でやめてしまう。先に結論を考えておきたいと思った。
- 無限にパターンがあり、面白かった。
- 今までの常識が覆って楽しかった。
- 登場人物はわかりやすく描くことが大切。

【その他】

- 今回のようなインタビューを聞き取材して自分で原稿をつくる講座をもっと増やしてほしい。違う学校の人と話すことが多く、同学年の友達もできたから、次の講座のときもこのような交流会を企画してほしい。
- CUEシート講座を増やしてほしい。
- 番組も交流会があればいいと思う。楽しく真剣に交流して自分の番組の出来具合を確認したいので。
- 構成中から番組完成までの間に意見を出し合える場があると、大阪の番組も今よりよくなるはず！
- お昼の放送についての講座がおもしろそう。
- ドラマの脚本講座があるとうれしい。
- 全体講座があればありがたいです。初心者にありがちなNG集なども教えてもらえると嬉しいです。
- 短時間でいいので。的確なアドバイスをいただきました。生徒たちは納得できたようです。入部3日目の生徒にもよくわかるアドバイスでした。

〔１〕会場・日程

11月5日（日） 大阪私学会館

09:30～10:00 【芸文祭】受付

10:00～10:15 【芸文祭】開会式

10:20～12:50 【芸文祭】アナウンス部門・朗読部門・番組部門公開審査

13:50～15:50 技術講座（アナウンス・朗読・ドキュメント）

16:00～16:30 【芸文祭】結果発表・表彰・閉会式・代表推薦者・推薦校への連絡

〔２〕講座内容・参加数

- ・アナウンス 講師：安田知博先生 参加20人
- ・朗読 講師 仲山豊秋先生 参加33人
- ・ドキュメント 講師 井村慎介先生 参加36人

〔３〕アンケート結果（抜粋）

<アナウンス講座>

- 生徒交流によって、自分だけでは気づかないことに気づけた
- 何を伝えたいのかについて意識できるようになった。
- 初めて聞く人を意識することを学んだ
- 放送において大切なことが詰まっていた。
- 自分の成長を実感できた。
- 「普段の会話から練習が始まっている」という言葉が印象的だった。
- 相手を意識することを学んだ
- 他校との交流ができて良かった
- これまで読み方の工夫ばかり考えていたので、原稿に意識をもつきっかけになった。
- 生徒の意見も聞けたのでよかった。
- 自分の文章も、このような変な文章になっていたかもしれないと気づけた。
- コメントの使い方が意識できた。※事実はコメントにしない。
- 他人の原稿は客観的に添削できるので勉強になった
- 最初の文章で伝わらなければ疑問が続いてしまうという指摘に納得した。
- ラジオを聴こうと思った。
- 同じ原稿でも、主眼によって全く違う原稿になることに驚いた
- 不要な情報を見分けるコツがわかった。
- テーマが大きすぎると難しいということに気づけた。
- 初参加ですが、楽しかった。
- 今回のようなインタビューを聞き取材して自分で原稿をつくる講座をもっと増やしてほしい。違う学校の人と話すことが多く、同学年の友達もできたから、次の講座のときもこのような交流会を企画してほしい。

【朗読講座について】

- 文章を読むだけで情景が浮かび上がるような工夫が必要。
- 他校の朗読を聞いたことがよかった。
- 指導された訳ではないが、ためになる講座だった。
- 他校との交流ができて良かった。
- 指導を受けた生徒は、格段に上達していた。

- 自分も公開指導を受けたかった。
- お手本があったので、良かった。
- 適切な音声表現を考える作業はパズルのようで面白かった
- 1フレーズだけでも、音量・スピード・太さ・リズムの違いで表現が大きく変わることが分かった。
- ポーズの間隔など、これまで意識していなかったことが知れた。
- 苦手な長文のコツも知れてよかった。
- 指導が細やかでよかった。
- 普段の部活動では知ることができないテクニックなどを知ることができた。
- 朗読初心者にとっても、朗読のめざすところを実感できる講座だった。
- 「100%シーンを声にうつす」ことが重要だとあらためて分かった。
- 声の抑揚を意識できた。
- 「普段のしゃべり」を大切にしたいと思った。
- 「速度の変化」が課題だと気付けた。
- 場面や言葉にあった音づかいを意識して、色々と試そうと思った。
- 自然な音づかいや語り方を意識しようと思った。
- 初めての参加だったが、良い経験になった。また参加したい。
- 「書かれていることを動かして絵にすること」という言葉が印象的だった。
- 厳しい指導で成長につながった。

【番組講座について】

- 放送部の特権をしっかり使いたい
- 番組をみることは簡単なのに、作ることは難しいと感じた。
- 番組制作の手順を実際に体験することで理解できた。
- ところどころの解説が役にたった。
- 自分たちが制作したドキュメントについてのアドバイスが欲しかった。
- 紙とペンで取材することを知った。参加できなかった部員にも伝えたい。
- スケジュールの見直しをしようと思った。（多数）
- 企画を考えることが楽しかった。
- 終わり方が難しいと感じていたが、一つ的话题をきっかけに多面的にとらえるということを実践したい。
- 番組制作の楽しさがわかった。ドラマ制作にも生かしたい。
- 普段はひとりで制作しているが、みんなで話しながらの作業が楽しかった。
- 他校との交流ができて良かった。
- 番組の着眼点なども知れて良かった。
- すぐにカメラをまわすクセを改善したいと思った。
- 初参加ですが、楽しかった。
- もう少し講座の時間が長いといいな。
- 他の人の発言が活発でよかった。
- 他校生徒との交流が楽しかった。
- 番組制作の芯を通していただけたような思いです。

<コンテストについて>

- 午前の部で、多くの人が出入りしていた。
- タイマーを使っていいか伝えられていなかったので戸惑った。次には事前に伝えてほしい。
- 全員の発表を聞くことができて、上手な人はひきつけられるようなオーラがあった。
- 他部門の発表も聞けたので良かった。

- たくさんの人の朗読やアナウンスをたくさん聞けたのでよかった。
- 他部門の発表を聞いたことがよかった。
- 昼休みが長い

<こんな講座があったらいいな>

- アニメのように、セリフに主軸を置いた講座がほしい。
- 放送部員同士で練習方法や部員の集め方などを共有しあう機会があると嬉しい。
- 生徒同士での意見交流できる場がほしい。
- ドラマ講座を作ってほしい。できれば、脚本制作に重きをおいたものを。
- 活舌を良くするにはどうしたらいいか。
- 講座のスタンスが決まっていたよかった。
- 朗読講座について、生徒同士で読みあいや感想を言う形にしてほしかった。
- 朗読講座について、グループワークを多めにしてほしかった。
- アナウンス講座について、もっと個別指導をしてほしかった。

<教員アナウンス講座>

- 安田先生の話し方全てが学びになっていた。他校の部員との交流を促す雰囲気もよかったです。
- 原稿のつくりかただけでなく、読みについても良い勉強をさせてもらえた。

<教員朗読講座>

- 生徒の待機人数は一人にした方がよかった
- 緩急のことや高低のことなど、大切な部分を色々ときくことができた。
生徒の上達の様子をみて、さすがだと思いました。
- 一人一人の読み方に即した指導をいただいた。生徒たちの朗読がみるみる変化することを実感できた。

<教員番組講座>

- 番組企画のワークショップがよかった。この講座を通して話し合いの進め方を体得できた気がする。
- 入部間もない生徒も、「楽しかった」と言っていた。

<全体的に>

- 人数的にもいい会でした。特に午前は進行がスムーズで良かった。
- 終日運営がスムーズで、会場も使いやすく快適だった。
- この講座を生徒たちを目標や楽しみにしている。日曜・祝日や長期休暇でなく、平日や土曜日に大会日程を設定してほしい（休日出勤は限りなく難しい）。
- アンケートは-googleフォームで入力にした方が回収率が上がるのでは？
全員に一つずつでもアドバイスがあればよかった

高校生のための放送技術講座（４）実施報告

〔１〕会場・日程

１月２８日（日） 相愛高等学校

９：３０～１０：００ 受付

１０：００～１２：３０ 午前の部（アナウンス・朗読・ドキュメント）

１３：３０～１６：００ 午後の部（アナウンス・朗読・ドキュメント）

〔２〕講座内容

- ・アナウンス講座 １０：００ 公開指導 講師 仲山豊秋先生（元NHKアナウンサー）
１３：３０ 模擬審査・交流会 グループワーク
※顧問の先生方にも指導にご参加いただきました
※自作原稿（過去のものでよい）を持参してもらいました。
- ・朗読講座 １０：００ 模擬審査・交流会 グループワーク
※顧問の先生方にも指導にご参加いただきました
※第７１回NHK杯指定作品の中から２分以内の抽出原稿を持参してもらいました。
１３：３０ 公開指導 講師 仲山豊秋先生（元NHKアナウンサー）
- ・ドキュメント講座 講師 井村慎介氏（関西テレビ放送）
※資料動画を事前に視聴してもらいました（メールにて別途連絡）
１０：００～番組鑑賞会・ビギナー向け講座・交流会
過去に制作した番組の講評、番組制作ビギナー向けのアドバイスなどの内容で実施しました。参加者には作品の事前提出をお願いしました。
１３：３０～番組相談会・ビギナー向け講座・交流会
コンテストに向け企画書をブラッシュアップする講習を行いました。
※企画書を事前提出してもらいました

〔３〕参加数

参考総数 １９校 顧問２４人

午前：アナウンス ３０人 番組 ３４人 ドキュメント ８人（番組提供２）

午後：アナウンス ２６人 朗読 ４３人 ドキュメント ８人（番組提供２）

〔４〕アンケート結果（抜粋）

<アナウンス 仲山先生講座>

- 自分では気づけない点に気づくことができた。新たな発見があった。
- 一息読みの大切さがわかった。
- 次のコンテストに生かしていきたい。
- 自分たちの独特な「堅さ」は「文を読んでいる」ことだと気づいた。視野が広がった。
- 強調することの大切さがわかった。どんな風になると読んでいると思われるのかを知れてよかった。
- イメージはできるけど、実際にしゃべると全然できず、すごく緊張した。
- 語るアナウンスが重要だとわかった。
- 「自然なしゃべり」と「強調伝達」について深く知れた。他の人の指導でも「あっ、自分も気を付けよう」と思った。
- これまでどこを意識して読むべきなのかわからなかったが、今回の講座でつかむことができた。
- 「おし」と「ひき」という大切な音の取り方を知れてよかった。

- 音の高低、文末の速度、キーワードの強調伝達など、これまで意識が弱かったところに気づかせてもらい、本当に参考になった。「自然に」を大切に、今から練習していこうと思う。
- すごく良かった。
- 他の人の指導を聞くことも大変勉強になった。
- 初心者にもわかるように指導をしてもらえて、非常に有意義だった。

<朗読 模擬審査>

- 他校と交流できて良かった。模擬審査で、顧問とアナウンサーと自分のズレを感じることができて楽しかった。
- 初対面の人とのディスカッションが新鮮で良かった。同級生からの意見だからこそすんなりと受け入れることができた。
- 他校生徒のレベルの高い朗読を聞いてよかった。初参加だったが、有意義で面白かった。
- 自分のクセをみつけることができた。
- 自分では気づけない点に気づかせてもらえた。
- 審査の観点をつかむことができた。
- 他校顧問の先生の視点が新鮮だった。
- 他校とのコミュニケーションが楽しかった。
- 緊張したが、得られるものが多く、来てよかったと思った。
- アクセント辞典を活用したいと思った。

<アナウンス 模擬審査>

- 他校生徒と交流して、志の違いの大きさを感じた。この先、自分はどう活動していくかしっかりと考えなければと思った。多くの方から助言をいただいたことも良い経験になったが、それ以上に生徒同士で意見を交換できたことがよかった。
- 聞く力がつくと、上手く読めるようになるのかなと思った。
- 自分の課題がはっきりわかった。
- 他校の生徒の原稿がどのように書かれているのかを知ることができて、参考になった。
- 話したことのない人と交流したり、初めて言われたアドバイスがたくさんあり、本当にためになった。顔を上げるという最も基本的なところもしっかりと教えてもらって有難かった。
- 原稿の方針に迷っていたので、方針が確定して自分の中でもすっきりした。今まで出会ったことのない意見が手に入ってよかった。
- 他人のアナウンスに得点をつけるのは難しかったけど、面白かった。
- グループごとの審査も実力アップになると実感できた。
- 他校生徒とのディスカッションが初めてで、とても楽しく、意味のある講座だった。

<朗読 仲山先生講座>

- ほめてもらえてうれしかった。「音声世界観」という新たな視点を学べた。文章に書かれていることを「動かす」を目標して、新しい気づきがあった。
- 他の人への指導もためになるものばかりだった。
- 結果は同じでも過程は複数あることを学んだ。感動した。相手について考え抜くことが大切だとわかった。
- 聞いてもらいたい人が聞いてもらえるシステムが良かった。
- 自分の読みが単調であることに気づけた。文章の理解が必要だとわかった。単調読みや棒読みの改善へのヒントが得られた。
- 朗読の楽しさが感じられるいい講座だった。
- フレーズの切れ目を意識できるようになった。

<ドキュメント講座（午前）>

- 他の人の意見に刺激を受けた。それぞれの視点の違いに気づけた。みんなに負けないように頑張ろうと思った。
- 番組制作におけるコミュニケーションの重要性を実感した。
- 議論が楽しかった。客観的な視聴が大切だと思った。
- 積極的に発言できるようになりたい

<ドキュメント講座（午後）>

- カメラワークの技術、編集の応用テクニックなど勉強になった。また頑張りたいと思った。
- 自分の意見を積極的に話したいと思った。
- 自分のつくりたい作品について考えることができた。
- アナウンスだけでなく、ドキュメントもやってみたいと思った。
- 体験型で、おもしろかったし、楽しかった。受講したかいがあった。カメラの使い方、インタビューの仕方が学べてよかった。
- 具体的で理解しやすかった。

<その他>

- 知識不足も自分の状況も、井の中の蛙が原因だと今回の参加ではっきりとわかった。（ア）
- 色々な先生からもっと指摘がほしいとすることができた。（ア）
- はじめての講座ですごく緊張したが、とても実りあるものになった。（ア）
- 他校の生徒のとの交流が楽しかった。（ア）
- これからも頑張ろうと思ったし、自分がやらなければならないことが明確になった。（ア）
- 初参加だったが、読み方を見直すことができ、参加して本当によかった。（ア）
- 交流を通じて、自分の足りないところを知れて楽しかった。（ア）
- 色々な指導を受けて、次に頑張る方針をたてることができた。（ア）
- コミュニケーションの場が多かったことが良かった。（朗）
- 模擬審査が楽しかったので、また参加したい（朗）
- 放送部員との意見交換が貴重でよかった（朗）
- 新しい読みへの収穫があった。自分の成果につなげたい。（朗）
- 面白かった。初心者にとっても経験値のあがる講座だった（朗）
- 朗読は伝えることが大切だとわかった（朗）
- 他校放送部との交流がよかった。（朗）
- 次回も参加したい（朗）
- 講座とは別に、各学校の活動を紹介しあう報告会があるとうれしい（朗）
- 全員が参加できる講座にしてほしい（朗）
- 納得するところが多くて、楽しかった（朗）
- 実践する機会が多く、刺激になった（朗）
- カメラワークや編集の講座は継続してほしい。（ドキュ）
- どの講座もためになった。また参加したい。（ドキュ）
- 今までにない講座で、すごく楽しかった。交流もできてよかった。（ドキュ）
- コミュニケーションがとれて楽しかった（ドキュ）
- 良い番組をつくりたいとあらためて思った（ドキュ）
- 今回で3回目の受講だが、毎回課題が違うので、成長できると思う。交流ができて楽しかった。（ドキュ）

第70回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会の報告

放送コンテスト委員会

表題の大会について、報告をします。

予選	番組部門	6月3日(土)	データによる非公開審査
	アナウンス・朗読部門	6月4日(日)	データによる非公開審査
決勝	全部門、研究発表	6月11日(日)	公開審査 会場：相愛高等学校
予選	参加校（エントリー）	49校	アナウンス 50名 朗読 160名
	番組	ラジオドキュメント	6作品
		テレビドキュメント	7作品
		ラジオドラマ	8作品
		テレビドラマ	8作品
		研究発表	3作品

※参加校とその内訳はあとの表1に、
朗読作品の作品別参加数は表2に示します。

決勝

〔アナウンス決勝課題〕

再来年の大阪・関西万博に向けて、オランダは、パビリオンの概要を発表し、最新のデジタル技術を駆使したヘルスケアや再生医療などの展示を行うことを明らかにしました。
きょうは、大阪・北区のホテルで、在大阪オランダ総領事館のマークカウパース総領事らが会見して、出展するパビリオンの概要を発表しました。
それによりますと、パビリオンは箱型の建物の中心に「次世代への太陽」として、直径11メートルの球体を設け、持続可能なクリーンエネルギーを象徴的に表現するということです。
展示では、気候変動対策が世界的な課題となるなか、ともに困難を乗り越えて行こうというメッセージを込めて、次世代のエネルギーとして注目される水素から水を作り出す最新技術などを紹介する計画です。
また、西洋医学の知識がオランダから日本に伝わった歴史を踏まえ、最新のデジタル技術を駆使したヘルスケアや再生医療についても展示するということです。

〔朗読決勝課題〕

雨上がりの夕暮れ。
神通（じんづう）大橋を渡った時、「わあ、きれいな景色ですね」と思わず運転手さんに言ったら、運転手さんが「昔、イタイタイ病があったんですよ」とポツリと言った。教科書で習ったけど、それがこの場所だったなんてぜんぜん知らなかった。生まれ育った人と観光で来る人は、同じ川の景色でも美しさとか、悲しさとか、見え方が違う。運転手さんは、その後ずっと黙ったままだった。

（益田ミリ 「47都道府県 女ひとりで行ってみよう」中「富山県」より）

審査員〈敬称略〉

＜アナウンス・朗読部門＞

北郷三穂子（NHK大阪放送局）、小畑敦彦（大阪府立貝塚高校長：高視研会長）、伊藤元也（四天王寺東高校：高視研役員）、鎌田 潤（元放送コンテスト委員長）、田名瀬さゆり（大阪府立箕面高校：高視研役員）、安田知博（「放送部インストラクター」）、三浦早絵（浪速高校） 原稿 山口美咲（大阪府立布施北高校）
計時 加藤康恵（大阪府立富田林高校）

<番組制作部門>

田中 正（NHK大阪放送局）、浜田佳樹（大阪府立東百舌鳥高校長：高視研副会長）、久下哲也（大阪府立池田高校：高視研役員）、阪本純治（桃山学院高校：高視研役員）、姫路裕敏（大阪府立福井高校：高視研役員）、藤田大輔（阪南大学高等学校：高視研役員） 権利関係など規定 吉新聖二（大阪府立三島高校：高視研役員） 計時 酒井 学（大阪府立堺西高校：高視研役員）

決勝の結果はあとの表3に示します。

前回とくらべて、エントリー校が増えました。（前回39校）また、ラジオドラマ以外はエントリー作品も増えました。（前回 アナウンス42名、朗読116名 ラジオドキュメント4作品 テレビドキュメント4作品 ラジオドラマ9作品 テレビドラマ6作品 研究発表2作品）

朗読へのエントリーはやはり多いです。アナウンスも朗読も全国大会には6名しか推薦できません。各県の傾向も朗読へのエントリーが多いのですが、確率論ではありませんが、アナウンスのほうが有利なところもあります。もう少しアナウンスのエントリーが増えればと思います。

番組では、ドキュメントのエントリーは前回の倍となりました。これは、近年の放送技術講座での「ドキュメント講座」の成果のひとつと考えます。

今回も、「感染拡大防止」の観点から大人数で集まることを避けるため、予選は番組とアナウンス・朗読を分けて非公開にしてデータ審査を行いました。決勝は同じ日に全部門を公開で行いました。

「予選から、ライブで発表を」という意見が多く聞かれました。次回71回大会では、数年ぶりにアナウンス・朗読の予選から公開審査を予定しております。長らく取り組んでできませんでしたので、不安も多いのですが、みなさんのご協力をいただければと考えております。

運営について、予選では、参加校の顧問の先生方に審査をお願いしました。土曜日の審査では、私立高校は土曜日に授業を行っている学校が多いので、府立高校の先生方を中心に審査員をお願いしました。一部の府立高校での「土曜授業」などのために変更が何名かありましたが、無事に終えました。

決勝も昨年までの人数を制限をなくし、アナウンス・朗読部門では、発表後のマイクやテーブルの消毒も取りやめました。

結果発表も当日にできました。決勝がライブ開催できたことは生徒たちが生き生きとしていて、運営側として開催ができて本当に良かったです。

「校内放送活動研究会」では、NHKの北郷アナ、田中ディレクターに、決勝の講評に加えてアドバイスをいただき、質疑応答では丁寧な指導もいただきました。

今回の運営を振り返り、次回に向けて検討していきたいと思います。

表3にもありますように全国大会では、アナウンス・朗読から5名、テレビドキュメント1作品が準決勝に進み、朗読1名が決勝に進みました。生徒さんの普段の努力が、目に見える形で現れました。このあとの各校の活躍に期待したいと思います。

（大阪夕陽丘学園高等学校 中井勝久）

表1 第70回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 参加校および参加部門一覧

申込No.	学校名－正式名称	アナ	朗読	Rドキュ	Tドキュ	Rドラマ	Tドラマ	研究発表	参加人数
1	宣真高等学校	5	0	0	0	0	0	0	5
2	大阪学芸高等学校	0	2	0	0	0	0	0	5
3	関西学院千里国際高等部	0	3	0	0	0	0	0	3
4	大阪府立市岡高等学校	2	0	0	0	0	0	0	11
5	箕面自由学園高等学校	2	11	2	2	3	2	0	16
6	関西大倉高等学校	0	0	0	0	0	1	0	8
7	大阪府立いちりつ高等学校	1	5	0	0	0	0	0	10
8	堺リベラル中学校高等学校	0	0	0	0	1	0	0	16
9	プール学院高等学校	1	6	0	0	0	0	0	9
10	近畿大学附属高等学校	0	7	0	0	0	0	0	10
11	桃山学院高等学校	1	13	0	0	1	0	0	14
12	大阪府立茨木高等学校	0	1	0	0	0	0	0	11
13	大阪府立布施高等学校	0	4	0	0	0	0	0	14
14	大阪府立みどり清朋高等学校	0	4	0	0	0	0	0	5
15	大阪府立箕面高等学校	1	1	0	0	0	0	0	2
16	大阪府立和泉総合高等学校	0	0	0	0	1	0	0	5
17	大阪夕陽丘学園高等学校	1	1	1	0	0	0	0	8
18	アサンプション国際高等学校	0	5	0	0	0	0	0	8
19	大阪府立天王寺高等学校	0	5	0	0	0	0	0	9
20	常翔啓光学園高等学校	7	0	0	0	0	0	0	7
21	東大谷高等学校	0	3	0	0	0	0	0	3
22	梅花高等学校	1	4	0	0	0	0	0	15
23	大阪府立北野高等学校	0	2	0	0	0	0	0	8
24	関西創価高等学校	1	2	0	0	0	0	0	40
25	金光大阪高等学校	4	0	0	0	0	0	0	5
26	大阪府立槻の木高等学校	1	2	0	1	0	0	0	5
27	大阪府立旭高等学校	0	6	0	0	1	0	0	11
28	相愛高等学校	3	7	1	1	0	0	1	16
29	大阪府立池田高等学校	2	1	0	0	0	0	0	8
30	大阪信愛学院高等学校	1	10	0	0	0	0	0	11
31	浪速高等学校	0	10	0	1	0	1	0	14
32	帝塚山学院高等学校	2	2	0	0	0	0	0	8
33	大阪府立今宮工科高等学校	0	0	0	0	1	0	1	6
34	四天王寺高等学校	0	8	1	0	0	0	0	15
35	東海大学付属大阪仰星高等学校	0	1	0	0	0	0	0	7
36	大阪府立豊中高等学校	0	2	0	0	0	0	0	13
37	大阪国際高等学校	2	2	0	0	0	0	0	5
38	大阪緑涼高等学校	0	0	0	0	0	1	0	20
39	常翔学園高等学校	0	3	0	0	0	2	0	23
40	四天王寺東高等学校	4	2	0	1	0	1	0	13
41	阪南大学高等学校	3	2	0	0	0	0	0	5
42	大阪府立水都国際高等学校	0	3	0	0	0	0	0	3
43	大阪府立富田林高等学校	2	2	0	0	0	0	0	10
44	大阪府立今宮高等学校	0	2	0	0	0	0	0	10
45	開明高等学校	0	1	0	0	0	0	0	1
46	大阪府立港高等学校	0	2	0	0	0	0	0	13
47	大阪府立堺西高等学校	2	3	1	1	0	0	1	8
48	大阪スクールオブミュージック高等専修学校	0	10	0	0	0	0	0	10
49	大谷学園 大谷高等学校	1	0	0	0	0	0	0	1
	合計	50	160	6	7	8	8	3	483

表2 第70回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会
朗読作品および作品別参加数

作品番号	著者	作品名	参加数
1	芥川 龍之介	「教科書で読む名作 羅生門・蜜柑ほか」	51
2	平松 洋子	「買えない味」	41
3	藤岡 陽子	「金の角持つ子どもたち」	53
4	ジーン・ポーター/村岡 花子 訳	「リンバロストの乙女 上下」	10
5	松尾 芭蕉	「奥の細道」	5

表3 第70回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 決勝 結果

アナウンス部門				ラジオドキュメント部門			
審査順	学校名	生徒名前	全国大会	審査順	学校名	作品名	全国大会
1位	16 相愛	上田 奈々葉	入選(準決勝進出)	1位	3 大阪府立堺西	ことば、つなぐ	全国大会
2位	3 プール学院	栗飯原 優衣		2位	6 相愛	人生100年時代、挑戦する背中	
3位	9 相愛	中脇 凜		3位	4 真面自由	先が見えなくても	
4位	12 大阪府立箕面	寺尾 結梨		4位	2 四天王寺	私たちとSDGs	
5位	8 大阪府立いちりつ道家	晴菜	入選(準決勝進出)	入選	1 真面自由	MC SHIP	
6位	2 大阪府立池田	山下 芽泉		入選	5 大阪夕陽丘学園	はじめてのA、R、E.	
入選	2 相愛	平 ゐとあ					
入選	4 桃山学院	小西 葵					
入選	11 常翔啓光	伊藤 謙吾					
入選	18 四天王寺東	高木 詩歩					

朗読部門				テレビドキュメント部門			
審査順	学校名	生徒名前	全国大会	審査順	学校名	作品名	全国大会
1位	19 相愛	山本 有里	入選(準決勝進出)	1位	3 真面自由	おはよう靴下	全国大会
2位	32 相愛	木村 音葉	入選(準決勝進出)	2位	3 四天王寺東	この授業タブレット使いません	
3位	7 相愛	辻本 明日美	優良(決勝進出)	3位	2 相愛	とらわれない。	
4位	28 大阪府立箕面	福本 稜馬		4位	5 大阪府立堺西	山岡、育休取るってよ。	制作奨励賞(準決勝進出)
5位	5 浪速	大里 卓也		入選	1 大阪府立榊の木	唐揚げから視える世界	
6位	36 桃山学院	東浦 愛夏		入選	6 真面自由	New play "e" r	
入選	3 大阪府立いちりつ濱田	柚音					
入選	8 関西千里	肥後 有咲					
入選	10 大阪府立堺西	田井 千尋					
入選	13 相愛	林 夏香					
入選	14 浪速	高木 咲月					

創作ラジオドラマ部門				創作テレビドラマ部門			
審査順	学校名	作品名	全国大会	審査順	学校名	作品名	全国大会
1位	1 真面自由	愛せるわけないじゃない	全国大会	1位	4 真面自由	二十世紀の悪魔が囁く	全国大会
2位	3 桃山学院	僕は僕		2位	2 四天王寺東	この声をあなたに	
3位	1 堺リベラル	ドリームボックス		3位	1 真面自由	V	
入選	2 大阪府立今宮工科	心の花		入選	3 浪速	呪電	
入選	4 真面自由	熱波師部 サ道での構開け					
入選	5 大阪府立今宮工科	新感覚の体験を					

校内放送研究発表会

審査順	学校名	発表名	全国大会
研究奨励	1 相愛	声線の技術を取り入れた発声法の研究	研究奨励賞
研究奨励	3 大阪府立今宮工科(N・A)	～新しい広告～	研究奨励賞

総合優秀校

得点	学校名
1位 100	真面自由
2位 93	相愛
3位 38	四天王寺東

第70回NHK杯全国高校放送コンテスト
アナウンス部門決勝

	県名	校名	氏名	学年
優勝	長崎	イサハヤ 長崎県立諫早高等学校	コカ ミキ 古賀 美希	2
準優勝	鹿児島	カシマシユンシヨシ 鹿児島純心女子高等学校	タメチ ユウカ 堅道 夕夏	2
優秀	青森	ヒロサキ 青森県立弘前高等学校	サウ マリコ 佐藤 穂子	3
優秀	熊本	クマモトカクエンタイソク 熊本学園大学付属高等学校	ヤマサキ ミナミ 山崎 南	3
優良	宮崎	ミヤサキキタ 宮崎県立宮崎北高等学校	モリタ アリ 盛田 娃璃	3
優良	北海道	サッホ ロキタ 北海道札幌北高等学校	タナカ レイ 田中 玲和	3
優良	長崎	ナカサキホクワタイ 長崎県立長崎北陽台高等学校	カワツエ ユイ 川添 結愛	3
優良	佐賀	サカセウ 佐賀清和高等学校	ソエジマ ハツキ 副島 葉月	3
優良	長崎	イサハヤ 長崎県立諫早高等学校	ナカヤマ タケミ 中山 拓望	3
優良	宮城	センタイセイリョウ 仙台市立仙台青陵中等教育学校	サクライ アスカ 櫻井 あすか	2

第70回NHK杯全国高校放送コンテスト
朗読部門決勝

	県名	校名	氏名	学年	作品
優勝	岐阜	キフキタ 岐阜県立岐阜北高等学校	フルタ モモカ 古田 桃香	2	3
準優勝	大分	ヘップツルミカオカ 大分県立別府鶴見丘高等学校	カワノ ユウカ 川野 優華	3	2
優秀	北海道	クシロホクヨウ 北海道釧路北陽高等学校	シヅカ サキ 篠塚 咲希	3	3
優秀	兵庫	イタミキタ 兵庫県立伊丹北高等学校	ニダヤ アミ 二宮 碧美	3	2
優良	大阪	ソウアイ 相愛高等学校	ツシモト アスミ 辻本 明日美	3	1
優良	石川	カササライズミカオカ 石川県立金沢泉丘高等学校	マスマツカ 増田 和夏子	3	2
優良	長崎	ナカサキホクワタイ 長崎県立長崎北陽台高等学校	タカヤマ ハヤト 高山 隼	3	3
優良	長崎	ナカサキホクワタイ 長崎県立長崎北陽台高等学校	オカワ ミナミ 小川 みなみ	3	3
優良	広島	クレミツタ 広島県立呉三津田高等学校	タカハシ カナ 高橋 奏羽	3	5
優良	長崎	シマハラ 長崎県立島原高等学校	ヨシカ アス 吉岡 杏珠	3	2

第70回NHK杯全国高校放送コンテスト
ラジオドキュメント部門決勝

	県名	校名	作品名
優勝	北海道	サッホ ロカタマ 北海道札幌丘珠高等学校	ワクラハズシテ 柁をはずして
準優勝	長野	エクスラン 松本昭和学園エクスラン高等学校	スタートライン スタートライン
優秀	兵庫	ヒカシハリマ 兵庫県立東播磨高等学校	ミライヘバシユクタイ 未来への宿題
優秀	広島	クレミツタ 広島県立呉三津田高等学校	ヒロシマカラアナタヘ ヒロシマからあなたへ

第70回NHK杯全国高校放送コンテスト
テレビドキュメント部門決勝

	県名	校名	作品名
優勝	宮崎	ハオカセイウン 宮崎県立延岡星雲高等学校	ワタシノカゾク 私の家族
準優勝	兵庫	ミカケ 兵庫県立御影高等学校	タメセツタイ ダメ、ゼツタイ？
優秀	長野	マツモトフカン 長野県松本深志高等学校	ジブンゴト 自分ごと
優秀	東京	ニチタイニ 日本大学第二高等学校	ハブリックフォンサイコ・トリテ Public Phone -最後の砦-

第70回NHK杯全国高校放送コンテスト
創作ラジオドラマ部門決勝

	県名	校名	作品名
優勝	北海道	サッホ ロシ 北海道札幌西高等学校	ノリイッセンチノキボウ 残り1センチの希望
準優勝	福井	フシマ 福井県立藤島高等学校	ワッチュウネーム わっちゅわねーむ
優秀	埼玉	フカヤタイイチ 埼玉県立深谷第一高等学校	ジシュデン 自主デン

第70回NHK杯全国高校放送コンテスト
創作テレビドラマ部門決勝

	県名	校名	作品名
優勝	鳥取	ヨチコウセン 独立行政法人国立高等専門学校機構 米子工業高等専門学校	カホハオホエラレナイ 果歩は覚えられない
準優勝	東京	キンショウ 錦城高等学校	エンカウンター ENCOUNTER
優秀	島根	ハマダ 島根県立浜田高等学校	イツデモイツマデモシケンニ いつでも、いつまでも真剣に

芸文祭 報告

(「第44回大阪府高等学校芸術文化祭 放送文化部門」報告)

第44回大阪府高等学校芸術文化祭は、令和6年1月20日(土)の開会行事部門を皮切りに、大東市立文化ホール(サーティホール)などを会場として開催されました。

放送文化部門はこれに先駆け、令和5年11月5日(日)に大阪私学会館で開催しました。

午前中にアナウンス・朗読、番組部門の発表と審査を行いました。これは、次年度8月2日(金)～8月3日(土)に岐阜県で行われる第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会(2024 ぎふ総文)における大阪府代表の選考を兼ねています。

午後は当日の発表をふまえた放送技術講座を実施しました。放送技術講座については、「第3回高校生のための放送技術講座」のページをご参照ください。

09:30～10:00 アナウンス部門・朗読部門・番組部門受付

10:00～10:10 開会式(アナウンス・朗読会場／番組会場で別々に実施)

10:10～12:50 アナウンス部門・朗読部門・番組部門公開審査

16:00～16:30 結果発表・表彰・閉会式・代表推薦者・推薦校への連絡

参加校は21校、アナウンス32名、朗読42名、ラジオ番組3作品、テレビ番組7作品、番組自由部門1作品でした。

アナウンス部門

優秀賞 山下 芽泉(池田)、寺尾 結梨(府立箕面)、木村 音葉(相愛)

奨励賞 林 夏香(相愛)、道家 晴菜(いちりつ)、
高木 詩歩(四天王寺東)、徳山 莉奈(池田)

朗読部門

優秀賞 福本 稜馬(府立箕面)、山本 有里(相愛)、東浦 愛夏(桃山学院)

奨励賞 高木 咲月(浪速)、山田 元気(浪速)、
亀井 和佳奈(桃山学院)、米島 明寿花(プール)

ラジオ番組部門

優秀賞 「未来への希望」(相愛)

奨励賞 「服部天神宮の後継者」(箕面自由)、「天王寺舞楽～1000年の時をこえて～」

テレビ番組部門

優秀賞 「第一回 足祭り」(箕面自由)、「浪速のシンボル」(相愛)

奨励賞 「先生方のシェアハウス」(四天王寺東)、
「Polaris ～大阪が生んだ奇跡のオムライス～」

なお、今年も例年どおり、開会行事(1月20日(土))の司会進行および部門紹介(録音)は、放送文化部門のアナウンス部門での優秀賞・奨励賞受賞者が担当しています。

近総文報告

(「第43回近畿高等学校総合文化祭(三重大会)放送部門」報告)

第43回全国高等学校総合文化祭三重大会は、令和5年11月19日(日)に、津市の三重県総合文化センター内 三重県男女共同参画センター 多目的ホールで開催されました。

大阪府からは下記の出場者、出場校が代表として参加し、1名が最優秀賞、2名が優秀賞を受賞しました。

アナウンス部門

伊藤 謙吾(常翔啓光学園) 高木 詩歩(四天王寺東) **優秀賞**

朗読部門

林 夏香(相愛) **最優秀賞** 高木 咲月(浪速) **優秀賞**

ビデオメッセージ部門

『ものづくりは人づくりー世代を超える堺包丁ー』(浪速・制作代表 副田 龍斗)

『HK02』(槻の木・制作代表 原 拓海)

全総文報告

(「第47回全国高等学校総合文化祭(鹿児島大会)放送部門」報告)

第47回全国高等学校総合文化祭「かごしま総文」放送部門は、令和5年8月3日(木)～4日(金)に、かごしま県民交流センターで開催されました。

大阪府からは下記の出場者、出場校が代表として参加しました。1名が優秀賞を受賞しました。

アナウンス部門

上田 奈々葉(相愛) **優秀賞** 橋口 百花(相愛) 池邊 鈴花(府立箕面)

朗読部門

辻本 明日美(相愛) 山本 有里(相愛) 福本 稜馬(府立箕面)

オーディオメッセージ部門

「クマの手カフェ」(相愛・制作代表 徳野 すみれ)

ビデオメッセージ部門

「向かい風は追い風に」(四天王寺東・制作代表 水池 呼依)

「和泉に煌めく蜻蛉玉」(箕面自由・制作代表 植田 守)

近畿各府県 各市町村教育委員会教育長
各保育所(園)・幼稚園・こども園長
各小学校・中学校・高等学校・特別支援学校長
各所・園・学校 放送・視聴覚教育関係者
各所・園・学校 特別支援教育関係者

令和5年10月吉日

令和5年度

第72回近畿放送教育研究大会

第73回近畿学校視聴覚教育研究大会

(京都大会)二次案内

近畿放送教育研究協議会 会長 十河 秀敏
近畿学校視聴覚教育連盟会長 会長 北埜 恵一
第70回近畿放送教育研究大会
第71回近畿学校視聴覚教育研究大会京都大会
実行委員長 日吉 肇

大会主題 「心に響き、豊かな感性を育むために」
～GIGAで未来を切り拓く～

令和5年11月17日(金)

受付 9時20分(各公開校にて)

終了 16時20分 予定

初秋の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は放送教育・視聴覚教育の充実のためにご指導とご協力を賜りありがとうございます。さて、標記大会を11月に京都市を中心に開催することになりました。GIGA 端末をはじめ、さまざまなメディアを活用する情報化社会の中で、放送・視聴覚教育の果たす役割もますます重要になってきました。生き生きと活動する子どもたちの姿をご覧いただくと共に、ご報告いただく実践や講演会などを中心に研究協議を重ね、これからの情報化社会における教育の在り方を考える機会になればと考えています。どうか多くの方々にご参加いただき、研修を深めていただきたく、ご案内申し上げます。

主 催	日本学校視聴覚教育連盟	近畿放送教育研究協議会		
	近畿学校視聴覚教育連盟	京都放送教育研究協議会		
共 催	全国放送教育研究会連盟	一般財団法人NHK財団	NHK京都放送局	京都アスニー
後 援	文部科学省 こども家庭庁			
	大阪府 京都府 滋賀県 兵庫県 奈良県 和歌山県 大阪市 京都市 神戸市 堺市			
	大阪府教育委員会 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会			
	和歌山県教育委員会 大阪府教育委員会 京都市教育委員会 神戸市教育委員会 堺市教育委員会			





1. 会 場

全体会場 京都アスニー（京都市生涯学習総合センター）

京都市中京区丸太町通七本松西入

公開保育園（幼稚園） 京都市立上賀茂幼稚園

京都市北区上賀茂烏帽子ヶ垣内町 1

授業公開校（小学校） 京都市立第四錦林小学校

京都市左京区吉田上阿達町 15-2

授業公開校（中学校） 京都市立安祥寺中学校

京都市山科区西野今屋敷町 9-6

2. 日 程

午前：公開授業・実践交流会 午後：全体会・講演会

9:20	9:40	10:25 (10:30)	11:20	12:30	13:30	14:00	16:00	16:20
受付	公開授業	校園種別 研究実践交流会	移動	休憩 昼食	NHKプレゼン 全体会 開会行事	講演会	閉会 行事	
		小学校は移動	アスニーにて研究実践交流会	昼食・休憩				
幼稚園・小学校・中学校				京都アスニー				

3. 対 象

近畿各府県の保育所（園）・こども園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校

・特別支援学校の教職員・教育委員会関係者

4. 参加費

無 料

5. 参加申込

右の二次元コードから申し込みを受付します。

【申込受付期間】

令和5年11月1日（水）～11月15日（水）



↑ 申し込みフォーム

読み取れない場合は <https://forms.office.com/r/MgTycWNbpJ>



公開授業校 京都市立安祥寺中学校

受付 9:20～ → 公開授業 9:45～10:35 → 実践発表交流会 10:50～11:50 → 移動(全体会場へ) 昼食 12:00 シャトルバス出発 (京都アスニー12:30着予定)

<公開授業>

学 年	指導者名	公開授業内容
1年3組	谷口 遥香	道徳「よりよい学校, 集団生活の充実」
2年1組	樫田 英貴	数学「一次関数の利用」
3年1組	菊谷 敏之	国語「いにしえの心を受け継ぐ」

<実践発表交流会>

校種	提案テーマ	提案者	助言者	司会者
【部会 D】 中学校	KYOTO×教育 DX 1人1台端末が切り拓く授業の姿	八藤 由之 (京都市立深草中学校)	久保 泰雄 (京都市立朱雀中学校)	高橋 利華 (京都市立伏見中学校)
	VR映像制作における 教育的効果	濱野 杏 (和歌山大学教育学部附属中学校)	森 浩基 (和歌山大学教育学部附属中学校)	佐武 昇 (和歌山大学教育学部附属中学校)
【部会 E】 中学校 高等学校	コロナ禍を通して変化した 本校の視聴覚環境について	都志 武司 (三木学園白陵中学高等学校)	安本 靖史 (兵庫県立教育研修所)	高井 輝基 (兵庫県立兵庫高等学校)
	少しビジュアルにこだわって —ICTの小さな活用—	平塚 隆三 (滋賀県立長浜北高等学校)	松島 正宜 (滋賀県教育委員会)	藤井 央子 (滋賀県立長浜北高等学校)

全体会場 京都アスニー(京都市生涯学習総合センター)

実践発表交流会 11:15～12:20 → NHKプレゼン 開会行事 13:30～14:00 → 講演会 14:00～16:00 → 閉会行事 16:00～16:20

<実践発表交流会>

校種	提案テーマ	提案者	助言者	司会者
【部会 B】 小学校①	「GIGA だからできること」 子どもの主体性をくすぐるしかけ	下出 範芳 (京都市立市原野小学校)	西田 晋 (京都市立市原野小学校)	津高 修一 (京都市立神川小学校)
	菩提寺小学校のリーディング DXスクール事業の取組	小西 自然 (湖南市立菩提寺小学校)	高岡 真士 (湖南市教育委員会)	長井 悠輔 (湖南市立水戸小学校)



校種	提案テーマ	提案者	助言者	司会者
【部会 C】 小学校②	ICT 機器を活用した 考えを深める道徳学習の工夫	宮本 和可奈 (香芝市立鎌田小学校) 森 優磨 (香芝市立真美ヶ丘小学校)	渡部 浩行 (香芝市立関屋小学校)	矢野 雄悟 (平群町立平群小学校)
	持続可能な学習活動による 「主体的・対話的で深い学び」 の創造 —5年総合的な学習の 時間 「SDGs達成に向けて、わたし たちにできることを考えよう」—	貴村 亮太 (大阪市立加島小学校) 久山 健太郎 (大阪市立大桐小学校)	伊藤 浩史 (大阪市立小路小学校)	大阪
【部会 F】 特別支援 学校・学級	ICT で生きる力を育む ～子どもの特性に応じた ICT 活用授業を通して～	櫻井 侃 (京都市立勤修小学校)	前田 稔 (京都市教育委員会)	高橋 雅 (京都市立西陣中央小学校)
	「TV マンになってみよう」 ～情報を発信する、受け取る～	岡田 浩樹 (大阪府立東大阪支援学校)		

7. 講演会

講 師 おおくぼ きいちろう 大久保 紀一朗 氏
講演演題 「GIGA スクールが拓く未来の学び」



プロフィール 大久保 紀一朗 博士(情報科学・東北大学)

京都教育大学 教育創生リージョナル機構・教職キャリア高度化センター 講師

■学歴

2001 年島根県松江北高等学校 普通科卒業

2005 年東京学芸大学教育学部初等教育教員養成課程国語選修(根本正義研究室)卒業 学士(教育学)

2007 年東京学芸大学大学院教育学研究科国語教育国語科教育コース(根本正義研究室)修了 修士(教育学)

2020 年東北大学大学院情報科学研究科博士課程後期人間社会情報科学専攻メディア情報学講座メディア文化論分野情報リテラシー教育プログラム・メディア教育論ゼミ(堀田龍也研究室)修了 博士(情報科学)

■研究分野

教育工学、メディア教育、メディア・リテラシー、マンガ読解、初等教育(小学校)、ICT活用、プログラミング教育

■受賞歴

2020 年 日本読書学会 読書科学研究奨励賞

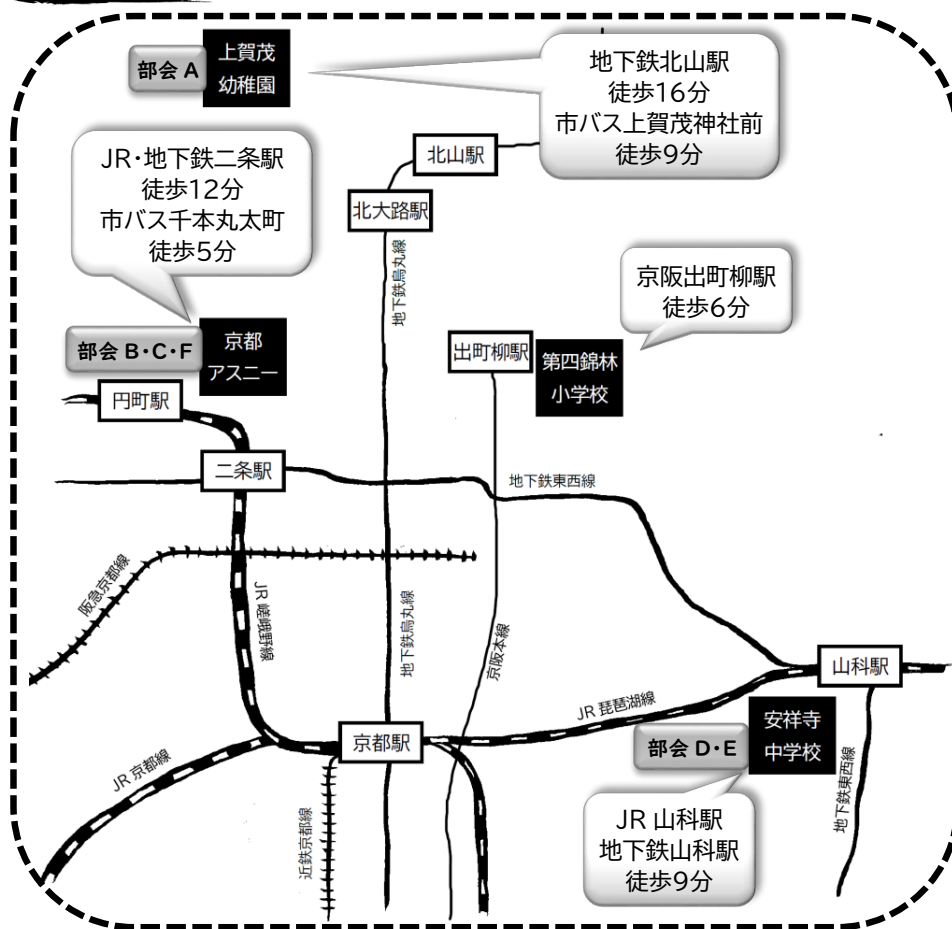
2012 年 情報コミュニケーション学会 優秀発表賞

■委員等

学校 DX 戦略アドバイザー(文部科学省)

引用: <http://kiichiro-okubo-lab.net/profile/>

8. アクセス



京都大会に関する問い合わせ先

京都放送教育研究協議会事務局長 伊藤 浩良
 京都市立小栗栖宮山小学校
 電話: 075-572-5216
 mail: z1934-itou@edu.city.kyoto.jp

<各会場の詳細 MAP> ※引用 Google Map

京都市立
上賀茂幼稚園



京都市立
第四錦林小学校



京都市立
安祥寺中学校



京都アスニー
京都市生涯学習総合センター



9. その他

※近隣の駐車場は、大変混雑することが予想されます。公共交通機関をご利用ください。また、会場移動の際はシャトルバスもぜひご利用ください。

※持参していただいた昼食は京都アスニーにて飲食可能です。

※台風や災害による大会実施の有無は、右の二次元コードから確認してください。

大会実施の確認



大阪府高等学校視聴覚教育研究会「大阪高視研」公式ホームページのご案内

<https://www.koushiken.jp>

NHK 杯全国高校放送コンテストの要項・申込み、及び結果・講評

高校生のための放送技術講座の要項・申込み、及び結果・講評

優秀作品のストーリーミング

リンク集（Nコン公式、NHK クリエイティブライブラリ、JASRACなど）

質問メール用フォーム

高視研総会関係 など

公式ブログ「大阪はひとつ！放送ぶろぐ」も開設しました。

結果速報や諸連絡などの発信を行っています。

<http://blog1.koushiken.jp>

発 行 日	令和6年3月31日
発 行 所	大阪府高等学校視聴覚教育研究会 事務局：池田市旭丘2丁目2番1号 大阪府立池田高等学校内（電話）072-761-1131
発行責任者	小 畑 敦 彦 （大阪府立貝塚高等学校校長）
編集委員	久 下 哲 也 （大阪府立池田高等学校）